

甲南中学・高校  
図書館  
図書委員会  
芦屋市山手町  
31番3号

第92号  
令和2年1月28日  
高二 尾久 雅也  
北村 拓豊  
西岡 知洋  
萩原 雅也

# 読書三昧

## 灘甲戦読書会



私は、今年で三回目の参加だが、ノンフィクションの本が課題となるのは初めてである。私は、歴史の用語や年代を覚えるのは苦手だが、歴史を知ることが好きなので、楽しんでいる。今年で三回目の参加だが、ノンフィクションの本が課題となるのは初めてである。私は、歴史の用語や年代を覚えるのは苦手だが、歴史を知ることが好きなので、楽しんでいる。

二〇一九年六月二六日(日)、甲南高校にて毎年恒例の灘甲戦読書会が開かれた。灘甲戦読書会とは、両校で相談し決めた一冊の本を事前に読み、本についての感想を言い合ったり、登場人物の性格を考察したり、歴史的背景から本質的内容を話し合ったりする。今年も、灘校生7名、甲南生3名が参加した。今年の課題本は、『コンスタンティノーブルの陥落』だった。

『コンスタンティノーブルの陥落』は題名にもあるように、東ローマ帝国の首都として一千年余も栄えたコンスタンティノーブルを中心として話が進んでいく。コンスタンティノーブルは、独自の文化を誇っていたが次第に衰え、十五世紀後半にはオスマン・トルコ皇帝マホメッド二世の攻撃の前に、ついに最期を迎えようとしていた。この本は、そんな時代に起こった、地中海

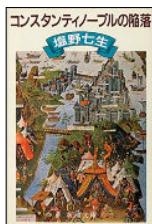
に君臨した首都をめぐる、キリスト教世界とイスラム世界との激しい覇権闘争を、豊富な資料を駆使して描き、甘美でスリリングなストーリーでつづられている。歴史の授業では、通常歴史を客観的に分析した教科書を使って生徒は学ぶ。しかしこの本が教科書と違い歴史書であることに大きなポイントがある。それは、メフメト二世やコンスタンティヌス十一世の視点からではなく、一介の商人や兵隊達の視点からも描いていることである。第三者の視点で描かれているのではなく、当事者の視点から描かれているので、読者は立場の違う人々の気持ちを感じることが出来る。これは読書会でも上がった話題で、様々な視点で描かれていることで人物の心情について話し合うことができた。しかも、この本は、ローマカトリック教会とギリシア正教会との関係、キリスト教とイスラム教の関係など宗教の内容が入っている。日本では過去の歴史を見返したとき、キリスト教を日本から排除しようと

した歴史はあるものの、キリスト教と仏教が対立し、完全に異なる宗教として争った歴史はない。どんな宗教でも受け入れるといって文化を持つ日本人の私たちにとって、この本に出会える、宗教を巡った争いに関わった人々の心情を理解することは、大変難しかった。

今年の読書会では歴史がテーマとなっていたため、この本の時代について詳しい社会科の山岡晃先生にも読書会に参加していただいた。先生は「この本は様々な視点から描かれているからこそ教科書とは違った歴史の面白さが生まれるが、宗教などの問題はしっかりと勉強した上で話さないと難しい」と話されたが、本当にその通りである。読書会の中で、挿絵がなかったり、本自体が分厚かったりするため、なかなか手に取りづらいということがあった。しかし読み終わると普通の小説のように、登場人物の心情を感じることができるといふことも話題になった。また、「自分が読んだとき

はそこまで感じられなかったが、他の生徒が感じたという視点も理解出来る」といった言葉も多く聞かれた。深読みすれば面白い本となるが、深読みしなくても楽しむことが出来るため、読むことをおすすめする。

塩野七生 著  
(尾久 雅也)



(Vノシオ)

# 図書委員交流会

六月二十九日(土)、私は図書委員の一人である伊藤君を連れて兵庫県私立学校図書館協議会の図書委員交流会に参加した。図書委員交流会とは県下各校の図書委員会が集まり交流するイベントである。

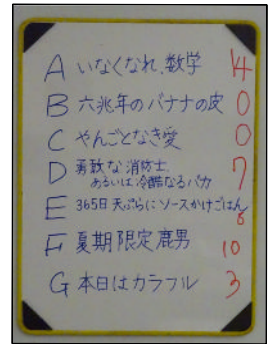
今年、私達甲南生には灘甲戦でお馴染みの灘校で行われた。

(左は、参加者全員の集合写真である。)

私は、図書委員交流会には初参加のため、どのようないイベントをするの



灘校の図書館に着して、最初に図書館の案内をもらった。まず、思ったことは図書館なのに見



みんなが考えたアイデア

晴らしいといいつぶだった。図書館といえは形は四角くあたり一面本だらけというイメージだ。しかし、灘校の図書館は、蔵書が多い割に、本棚が低く、本を読んだり自習をするための椅子や机を中心として、丸く広くスペースを取っているように、新鮮で面白く感じた。

その後、さまざまな学校の生徒で三、四人のグループが作られた。そして、今回の交流会で行うイベントである「リアル横暴編集長」の説明が始まった。横暴編集長とは本のタイトルになりそうな文字の札を組み合わせて架空の本を作り、そのあらすじを面白そうに説明するというボードゲームだ。「リアル横暴編集長」は、そのリアル版つまり実在の図書館の本

でタイトルを考え、本を作成するというゲームであった。

私はそもそも横暴編集長で遊んだことがないのであまり想像ができません。いまゲームがスタートした。とり

自己紹介をした後、タイトル用の本を探しに行った。最初は殺人サスペンスものを作ろうということとで本を選んだ。しかし、灘校の蔵書の種類や探した場所、グループのメンバーの趣味など様々な偶然が重なった結果、何故かラブコメディ系のライトルノベルが完成した。正直こつなるとは思ってたわけでもない。けれど、このゲームに熱中し、全力で取り組んでいる自分がそこにいた。参加前の自分からしたら目を疑う変化だった。それだけ夢中になったと言えよう。知らない人と意見を交換しながら一つの作品を作り上げる楽しさ。最終的な評論会では好成績ではなかったものの、私は

きつとこの瞬間を忘れないだろうと、思えるひと時となった。

昼過ぎから始まったこの交流会も気がついたらだいぶ時間が過ぎていた。高校三年生になり忙しい日々を過ごす私にとって、楽しい時間がすぐに過ぎてしまつという感覚は、久しぶりに感じた。それほどに濃く、楽しく、そして有意義な時間を過ごすことができたのだ。

甲南には大きな図書館があるが、その割には本を借りに来る生徒が少ない。このようなイベントを開催したら本に興味を持つ生徒も増えるのではないのか? そう思う図書委員交流会であった。

(伴 一志)



# 古本市の収支報告

二〇一八年度に行つた文化祭での古本市の使途について最終報告します。

売上・収入:

三八 九五〇円

支出: 三八 九五〇円

(内訳)

寄付(シャンティ国際ボランティア会)

一〇 〇〇〇円

学年文庫購入(71冊)

一四 八九二元

ジュンク堂店頭選書

(17冊)

一四 〇五八円

公益社団法人・シャンティ国際ボランティア会は、アジアの子どもたちに本を届ける活動をしている団体です。学年文庫は新島書店で、高校生の本を中心に購入しました。残つたお金は、十一月に図書委員で店頭選書を行った際に選んだ本で、図書館に入りました。

二〇二〇年度も古本市を行う予定です。四月以降に本の回収を行います。ご協力をお願いします。

# 店頭選書

十一月十六日(土)にジヨック堂二宮店にて図書委員による店頭選書を行いました。四人の図書委員が参加し、三十五冊の本を購入しました。四人がおすすめる本を以下に紹介します。ここで紹介していない本もたくさんあるので、ぜひ読んでみてください。

## 『サイコパスの真実』

原田隆之 著



(493/76/ハ)

高三 伴 一志

皆さんはサイコパスという言葉をご存知だろうか？最近ではドラマや映画、アニメの題材になっているのでご存知の方も多いだろう。私は某アニメでサイコパスとは悪意無く、または悪意を知らずに犯罪に手を染める感情の乏しい、もしくは感情の無いものと思ってきた。けど実際どうなんだろう？自分の友人はそれっぽいけどいいやつ

だぞ？サイコパスなんて都市伝説なのではないのだろうか。

知っているようで知らなかったサイコパスの真実について具体例と特徴どのように対処、共存していくべきなのか。その全てが詰まったサイコパスの解体新書とも言えるこの一冊、ぜひ手に取ってみたい。あなたのクラスの不思議なやつ、もしかしたらサイコパスなのかもしれない。サイコパスに興味のある方は、読んでみることをお勧めする。



## 『2049年 お金消滅 貨幣なき世界の歩き方』

斉藤賢爾 著



(388/ノ/サ)

高一 萩原 雅也

最近、私たちは、電子マネーやキャッシュレス決済、仮想通貨という言葉をよく耳にします。二〇四九年の時に現金が無くなれば、この時代を生きる人々は、世界をどのように生きていけばいいのか？加えて、どのような世界になるのか？それらについての筆者の考えが、この本に書かれています。読む際には、自分の考えと照らし合わせながら読んでみたら面白いかもしれません。興味がある方は、是非、この本を手に取ってみてください。

## 『AI崩壊』

浜口倫太郎 著



(ノ/えあ)

高一 萩原 雅也

この本は、二〇三〇年の日本を舞台にしたものです。投票から治療、体調管理まで担うAIの「ぞみ」が、何者かによって暴走し、命の選別を開始する。止められるのは、桐生浩介。限られた時間で、AIの暴走を止めて、国民の命を救うことができるのか、というあらすじになっています。



「すべて、吹き飛んでしまえ」突然の犯行予告の後、新宿駅爆破事件が起きた。その容疑者は渡辺篤人。私たちと近い一五歳の少年の犯行は、世間を震撼(しんかん)させる。少年犯罪を追う記者・安藤は、渡辺篤人とあったことがある。かつて少年犯罪被害者の会で出会った孤独な少年。何が、彼を凶行に駆り立てたのだろうか？進展しない捜査に、安藤は、行方をくらませた少年の足取りを追った。事件の裏に隠された驚愕(きょうおつ)がく(く)の真実に安藤が辿り着いたとき、15歳のテロリストの最後の闘いが始まるうとしていた。

## 『15歳のテロリスト』

松村涼哉 著



(ノ/まつ)

高一 西岡 知洋

### 図書委員が選んだ本の一部

分類	書名	著者名		
070.4	I	新聞の読み方 考える力と情報力が身につく	池上 彰 著	
302	オ	2030年の世界地図帳 あたらしい経済とSDGs	落合 陽一 著	
316	4	ジハードと死	オリヴィエ・ロワ 著	
757	021	ク	オリンピックと万博 巨大イベントのデザイン史	暮沢 剛巳 著
J	観	7	VR 変えるこれからの仕事図鑑	赤津 慧 著
y	いの	1	誰も死なないミステリーを君に 1~2	井上 悠宇 著
y	ひら		肉まんを新大阪で (文春文庫)	平松 洋子 著



# 第一次世界大戦の開戦原因

社会科学 濱口 忠大 先生

最近、第一次世界大戦関係の書籍がさかんに出版されています。日本では、第二次世界大戦に比べて参加の度合いも払った犠牲も小規模なので、あまり一般の人の関心はひきませんが、史上初めての「世界大戦」として世界中で記憶されている戦争です。この大戦が一九一四年に始まり一九一八年に終わったことから「百周年」を機に研究が活性化し、その成果が本になっていると言えます。特に注目を集めている話題の一つは、なぜ世界大戦が始まったかです。一問一答的なテストならば「オーストリアの皇太子夫妻がサラエボで暗殺されたから」と答えられますが、歴史家たちは、

下の画像は Shutterstock.com のライセンスに基づいて使用しています。 <https://www.shutterstock.com/>



この事件が最終的に火をつけるより前から、何か原因があったのではないかと探究します。

従来わが国でもっとも言われてきたことは、イギリスの「3C」（カイロ、ケープタウン、カルカタ）と、ドイツの「3B」（ベルリン、ビザンティウム、バグダード）という二つの帝国主義的な政策の衝突です。ところが、どうもこれが決定的な要因とは言えないことが明らかになってきました。新しい研究によつて、インドなど、イギリスの植民地から原料を輸入しないことにはドイツの製造業は成り立ちえなかつたし、より興味深いことに、3Bの象徴と言えるバグダードへの鉄道の建設資本をドイツは十分まかなえなかつたために、イギリスにも出資を呼び掛けていたことが示されました。これまでも対立の要素はかりが強調されてきましたが、実のところ開戦の直前まで英独両国がグローバルな規模で経済的な相互依存関係にあったことがわかってきたのです。

それでは何が原因かといつと、まだ決定的な答えは出てきていません。ただ、一九世紀の後半以降に参政権が拡大する中で、一般大衆の参戦熱を政治家たちがコントロールしきれなくなつたということが指摘されています。そこで彼らの感情を搔（か）き立てたものとして、ナショナリストたちが新聞雑誌に寄せた記事だけでなく、絵や歌のような文化にも関心が広がっています。

先日この開戦原因の問題についてあるクラスでプレゼンテーションをしてみらつたところ、なかなか3Cと3Bを越える議論は見られませんでした。これは発信者の側の問題もあるのでしょうが、歴史学に関してはまだまだ、ネット検索よりも本を見なければ新しい研究の内容を知ることができない状況があるようです。史料も、オンラインでかなり見られるようにはなつてきましたが、本気で研究する材料として十分とは言えません。今後書かれたもの、印刷されたものを読むことは大切であり続けるようです。

中学、高校レベルでは

なかなか難しい話ですが、この文章を読んだ人の中から将来、本格的に歴史を研究してみたいという人が出てきてくれれば嬉しく思います。

## 最近出版された第一次世界大戦関係の書籍

・小野塚知二編  
『第一次世界大戦開戦原因の再検討  
国際分業と民衆心理』  
岩波書店、二〇一四年



(209/7/オ)

・木村靖一  
『第一次世界大戦』  
ちくま新書、二〇一四年



(209/7/キ)

## 編集後記

今回初めて編集させていただきました。そして、編集の大変さを学び、世の中の新聞のすごさを改めて感じました。また編集作業をするかは分かりませんが、するのであればもっと効率よくやりたいと思います。

前回は、発行が予定より大幅に遅れてしまいましたが、今回予定通りに編集＆発行することができました。基本的に一人で編集を行い、残りの三人のうちひとり、時々手伝つてくれ、ほかの二人は、さぼりと留学で、結構大変な編集作業となりました。

今日は、卒業式ということで高三の皆様方ご卒業おめでとございませう。そして、原稿の作成をしていただいた図書委員の先輩方ありがとうございました。

読書三昧を読んでいたが、少しでも興味を持たれた方は、図書室に来てみませんか？

次号もお楽しみに。

(西岡知洋)